

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分
 【発行日】平成 23 年 7 月 7 日 (2011.7.7)

【公表番号】特表 2010-528284 (P2010-528284A)
 【公表日】平成 22 年 8 月 19 日 (2010.8.19)
 【年通号数】公開・登録公報 2010-033
 【出願番号】特願 2010-509375 (P2010-509375)
 【国際特許分類】

G 0 1 J 3/46 (2006.01)

【F I】

G 0 1 J 3/46 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 23 年 5 月 19 日 (2011.5.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

1. 色調標準の反射スペクトル R_{ST} を測定する工程と、
 2. 色処方および対応する測定反射スペクトル R_{PT} を含有するデータベースから前記色調標準に対する処方を同定する工程と、
 3. 同定された処方に対する理論反射スペクトル R_{RPT} を計算する工程と、
 4. 前記測定反射スペクトル R_{PT} と工程 3 で得られた計算反射スペクトル R_{RPT} との差スペクトル R を計算する工程と、
 5. 工程 4 で得られた差スペクトル R を用いて前記色調標準の反射スペクトル R_{ST} を調整することにより前記色調標準の修正反射スペクトル R_{STM} を生成する工程と、
 6. 前記修正反射スペクトル R_{STM} に基づいて処方を計算する工程と、
 7. 工程 6 で計算された処方に従って塗料を混合して基材に塗料を塗布する工程と、
- を含む、参照の色配合を規定の色調標準にマッチングさせる方法。

【請求項 2】

1. 色調標準の色座標 C_{ST} を実験により決定する工程と、
 2. 色処方および対応する実験により決定された色座標 C_{ST} を含有するデータベースから前記色調標準に対する処方を同定する工程と、
 3. 同定された処方に対する理論色座標 C_{PT} を計算する工程と、
 4. 同定された処方に対応する実験により決定された色座標 C_{PT} と工程 3 で得られた計算色座標 C_{RPT} との差 C を計算する工程と、
 5. 工程 4 で得られた色座標の差 C を用いて前記色調標準の色座標 C_{ST} を調整することにより前記色調標準の修正色座標 C_{STM} を生成する工程と、
 6. 前記修正色座標 C_{STM} に基づいて処方を計算する工程と、
 7. 工程 6 で計算された処方に従って塗料を混合して基材に塗料を塗布する工程と、
- を含む、参照の色配合を規定の色調標準にマッチングさせる方法。

【請求項 3】

車両の補修コーティングにおける、請求項 1 又は 2 に記載の方法の使用。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0068

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0068】

本発明に係る方法を用いた場合、3回のティント処理工程の後、処方は安定化された。満足すべきマッチング結果が達成された。

また、好ましい実施態様として、本発明を次のように構成することもできる。

(1)

1. 色調標準の反射スペクトル R_{ST} を測定する工程と、
2. 色処方および対応する測定反射スペクトル R_{PT} を含有するデータベースから前記色調標準に対する処方を同定する工程と、
3. 同定された処方に対する理論反射スペクトル R_{RPT} を計算する工程と、
4. 前記測定反射スペクトル R_{PT} と工程3で得られた計算反射スペクトル R_{RPT} との差スペクトル R を計算する工程と、
5. 工程4で得られた差スペクトル R を用いて前記色調標準の反射スペクトル R_{ST} を調整することにより前記色調標準の修正反射スペクトル R_{STM} を生成する工程と、
6. 前記修正反射スペクトル R_{STM} に基づいて処方を計算する工程と、
7. 工程6で計算された処方に従って塗料を混合して基材に塗料を塗布する工程と、を含む、参照の色配合を規定の色調標準にマッチングさせる方法。

(2)

工程6で塗布された前記塗料の反射スペクトル R_{PT} が測定され、かつ前記色調標準と前記塗布塗料との間の残留色差が依然として許容できない場合に工程3～7が反復される、上記(1)に記載の方法。

(3)

1. 色調標準の色座標 C_{ST} を実験により決定する工程と、
2. 色処方および対応する実験により決定された色座標 C_{ST} を含有するデータベースから前記色調標準に対する処方を同定する工程と、
3. 同定された処方に対する理論色座標 C_{PT} を計算する工程と、
4. 同定された処方に対応する実験により決定された色座標 C_{PT} と工程3で得られた計算色座標 C_{RPT} との差 C を計算する工程と、
5. 工程4で得られた色座標の差 C を用いて前記色調標準の色座標 C_{ST} を調整することにより前記色調標準の修正色座標 C_{STM} を生成する工程と、
6. 前記修正色座標 C_{STM} に基づいて処方を計算する工程と、
7. 工程6で計算された処方に従って塗料を混合して基材に塗料を塗布する工程と、を含む、参照の色配合を規定の色調標準にマッチングさせる方法。

(4)

工程7で塗布された前記塗料の色座標 C_{PT} が実験により決定され、かつ前記色調標準と前記塗布塗料との間の残留色差が依然として許容できない場合に工程3～7が反復される、上記(3)に記載の方法。

(5)

所与の終了基準が満たされるまで工程3～7が反復される、上記(2)に記載の方法。

(6)

所与の終了基準が満たされるまで工程3～7が反復される、上記(4)に記載の方法。

(7)

前記終了基準が、補正工程数の関数としてのすべての処方成分の個別濃度の収束性の解析に基づく数学的終了基準である、上記(5)または(6)に記載の方法。

(8)

前記色調標準が、コーティングの施された基材表面である、上記(1)～(7)のいずれか一項に記載の方法。

(9)

前記基材が車体または車体の一部である、上記(8)に記載の方法。

(1 0)

車両の補修コーティングにおける、上記 (1) ~ (9) のいずれか一項に記載の方法の
使用。